様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 4 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９５３０５５５
研究課題名（和文）幼稚園-小学校移行期における仲間適応要因の発達精神病理学的検討

研究課題名（英文）Developmental psychopathology of peer relation during environmental shift from kindergarten to elementary school.

研究代表者
中澤　潤（NAKAZAWA JUN）
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：４０１２７６７６

研究成果の概要（和文）：
適応上の問題の生じやすい幼稚園から小学校への環境移行期に焦点を当て、子どもの情動制御から仲間関係における適応を検討した。結果は以下の通りである。1.ネガティブ感情喚起後の安静時の鼻頭体表温は情動の回復の指標となる。2.幼児期の生理学的指標上の情緒制御の乏しさは仲間関係の乏しさや不適切な社会的行動（外在化・内在化問題行動）と関連する。３.年長幼児期に豊かな仲間関係を持つことは、小学１年生の適応的行動を予測する。

研究成果の概要（英文）：
The effects of children’s emotion regulation on their peer relationship during environmental shift period from kindergarten to elementary school were examined from developmental psychopathological view. Results were as follows. 1. Nose temperature of baseline period just after arousal of negative emotion was good physiological measure of emotion recovery. 2. Kindergarten children’s poor emotion recovery (low nose temperature) related to the low peer status and both of external- and internal-problem behavior. 3.Kindergarten children’s behavior did not predict their peer status at 1st grade, but their peer status predicted their social behavior at 1st grade.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・教育心理学
キーワード：情動制御、仲間関係、環境移行、社会的行動、発達精神病理学

１．研究開始当初の背景

仲間関係における問題行動の発生は、Rubin, LeMare & Lollis(1990)によりモデルが提案されている。このモデルの実証的研究は、どのような子どもが、どのような環境のもとにおかれると、どのような発達過程をたどっていくのかという、発達研究の中心的問題に答えるものとなる。また同時に、適応上の問題発生の解明がなされることで問題予防への糸口を得ることができる。適応上の問題の発生過程やその要因の検討を行うこのような新しい学問領域として発達精神病理学(Developmental Psychopathology)が生まれている（Waner & Kerig,2005）。本研究は、この発達精神病理学の視点から仲間関係上の問題の発達を明らかにしようとする。

２．研究の目的

子どもの仲間関係をめぐる適応上の問題は、特に環境移行期に出現しやすい。本研究では子どもが環境移行を体験しそれに伴い仲間関係の再編成を求められる小学校入学の前後を縦断的に検討することにより、幼稚園から小学校低学年にかけての適応を規定する要因の解明を行なう。特に、本研究では子どもの個人要因としての情動制御とその心理生理学的基盤と情動制御に及ぼす社会文化環境要因を検討する。そして、情動制御、仲間関係、教師評定を元に、仲間関係の発達過程をパネル研究により明らかにし、適応上の問題の予防・介入の手がかりを得ること、それを通して発達精神病理学のわが国における定着・発展をめざすことを目的とする。

３．研究の方法

本研究の基本となる情動制御刺激（MISC）のもつ生理学的反応喚起機能を、大学生を対象に、情動喚起刺激視聴時の表情変化、心拍、赤外線サーモグラフによる体温測定により検討した。

それを踏まえ、幼稚園年長児を対象に情動喚起刺激視聴時の表情変化、鼻頭体表温の測定を行うとともに、仲間関係、行動の教師評定を行い、それらの関連を分析した。表情変化については、米国の幼児のデータとの比較を行った。さらにこれら年長幼児については、縦断的に小学校１年時の仲間関係、行動の教師評定を行った。

４．研究成果

（１）情動制御の指標の検討

大学生による調査から、心拍と体表温の測定が情動制御の生理的指標となりうることが見出された。しかし、幼児に適用する場合、非侵襲的なサーモグラフによる体温測定がより適切であると判断された。

（２）情動制御の文化差の検討（表情表出から）

幼児の情動表出の制御に及ぼす文化的影響を、情動喚起刺激視聴時の情動制御の行動指標である表情変化から分析した。日本の幼児は米国の幼児より情動喚起場面における表情表出が少なく、情動表出を抑制しがちな日本人幼児にとり、非侵襲的なサーモグラフによる体表温測定は、観察可能な行動として捉えにくい情動制御の有効な指標となりうることが示唆された。

（３）情動制御と社会的行動の関連

仲間から遊び友だちとして選ばれることが少ない幼児は、多い幼児に比べて、情動刺激場面並びに情動喚起後の安静場面において体表温の低下が大きかった。特に、ネガテ

ィブ情動喚起後の安静時の体温の低下は、情動場面で喚起された不安や緊張の解消が難しいことを示唆している。このような感情の沈静化の難しさが、後に別の場所でのさまざまな問題行動をもたらし、それによって、仲間から回避されることにつながると考えられた。

（４）幼児期の指標と１年時の仲間への適応との関連

幼児期の仲間関係と教師による社会的行動評価、情動制御が、小１時の仲間関係と教師による社会的行動評価に及ぼす影響を検討した。幼児期の行動評定は小１時の仲間関係を予測しないが、幼児期の仲間関係は小１時の社会的行動を予測した。すなわち、幼児期に仲間からの友人選択の少なかったものは、幼児期の友人選択の影響を統計的に取り除いても、小１時に攻撃的、引っ込み思案と教師から評価された。このことは、幼児期の友達が少ないことが後の問題行動を引き起こすことを示すものである。仲間関係の少なさは、孤独感や孤立感を高め、また仲間の中で獲得される社会的スキルを学習する機会を奪うことになる。それが行動上の問題を引き起こすと考えられる。

（５）以上を通して、情動制御が幼児期の仲間関係に関連し、ついで幼児期の仲間関係が小１時の社会的行動に関連するという、この時期の仲間関係における問題発生の関係性が考察された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①中澤　潤　幼児における情動制御の社会的要因と文化的要因　千葉大学教育学部研究紀要，査読無　58, 2010, 37-42.

②中澤　潤　情動制御刺激の有効性の心理生理学的指標による検討　千葉大学教育学部研究紀要，査読無 57，2009, 119-124.

〔学会発表〕（計６件）

① 中澤　潤　小学校移行期における社会的行動と仲間関係　日本教育心理学会第 52 回総会，2010. 8. 早稲田大学

② 中澤　潤　幼児の情動表出制御の日米比較　日本教育心理学会第 51 回総会. 2009. 9. 21. 静岡大学

③ 中澤　潤　幼児における情動制御と適応　日本心理学会第 73 回大会. 2009. 8. 26.　立命館大学

④ 中澤　潤　幼児における情動の制御と仲間関係　日本発達心理学会第20回大会. 2009. 3. 23.　日本女子大学

⑤ 中澤　潤　情緒制御課題の有効性の検討　日本発達心理学会第 19 回大会. 2008. 3. 19. 追手門学院大学

⑥ 中澤　潤　情緒制御課題の有効性の検討　日本教育心理学会第 49 回総会. 2007. 9. 17. 文教大学

〔図書〕（計４件）

① 中澤　潤　幼児期II　中澤　潤（編）発達心理学の最先端：認知と社会化の発達科学　あいり出版 2009, 103-125.

② Shwalb,D.W.,Shwalb,B.J.,Nakazawa,J.,Hyun,J., Vanle,H., & Satiadarma,M.P. East and Southeast Asia: Japan, South Korea, Vietnam, and Indonesia. In M.H.Bornstein(Ed.), *Handbook of Cultural Developmental Science.* New York: Psychology Press., 2009, pp.445-464

③ 中澤　潤　幼児・児童の仲間関係、生徒の仲間関係、性意識と性の受容、部活動、行動の善し悪しと思いやり　中

澤　潤(編)よくわかる教育心理学　ミネルヴァ書房,2008,122-131.

④ 中澤　潤　子ども同士の関係におけるコミュニケーション　後藤宗理(編)保育現場のコミュニケーション：発達心理学的アプローチ　あいり出版 2008, 37-57.

６．研究組織

(1)研究代表者

中澤　潤（NAKAZAWA　JUN）
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：40127676